分野別研究組織成果報告（2010 年度）

インターネット調査を用いた個人の分配行動と割引に関する実証研究

Power of Individual Characteristics in Hypothetical Dictator Game Experiments

小川　一仁[1]（OGAWA Kazuhito）

研究概要

われわれは、本研究において 1300 人規模のインターネット調査を用いた仮想的独裁者ゲーム実験[2]を実施し、以下のことを検討した。(1)仮想的な受取人と独裁者の間にさまざまな社会的距離[3]が存在する場合の資金分配額が様々な個人特性[4]によってどのような影響を受けるか？(2)受取人に資金を分配するタイミングが将来にずれるときに、資金分配額が様々な個人特性によってどのような影響を受けるか？

独裁者ゲーム実験は 1980 年代以来、世界中で実施されてきた。しかし、本研究のように学生以外の被験者を大量に導入し、また個人特性データを使って分析した研究は例を見ない。

実験結果からは以下のことが明らかになった。(1)社会的距離が大きくなるに従って、独裁者の分配額が有意に小さくなること、(2)受取人に資金を分配するタイミングが将来になればなるほど、分配額が有意に小さくなること、(3)個人特性としては、従来知られている性別、神経質傾向、外向性の他に、利己的尺度、年齢、教育水準、所得、結婚状態が分配に有意な影響を与えることが明らかになった。

これらの情報は寄付金増加政策－大震災後の日本では特に重要となるだろう－に影響を与えると考えられる。

---

[1] 在職中の潤沢な研究費と研究支援体制に謝意を表する。

[2] 独裁者ゲームではプレイヤは 2 人、独裁者と受取人が居る。独裁者は実験者から資金を受け取った後、受取人にいくら分配するかを決定する。受取人は独裁者の決定に意義を挟むことはできず、独裁者の分配を受け取ってゲームが終了する。利己的かつ合理的な独裁者なら、受取人にビタ一文渡さない。これが従来のゲーム理論の結果であるが、世界中で行われている実験では独裁者は受取人に一定の金額を分配することが知られている。

[3] ここでは独裁者と受取人の間にある心理的距離を挿す。例えば、独裁者が自分の親兄弟にお金を分配する場合の社会的距離は独裁者が見ず知らずの他人にお金を分配する場合の社会的距離よりも近いと考える。

[4] 個人特性として性、年齢、学歴、所得、結婚しているかどうか、子供の有無、性格(いわゆる Big five 指標と一般的信頼尺度)を使用した。